

チェコのローカル線を訪ねて-2007-秋①

高島 伸幸

はじめに

10月にも続けて休暇を取得することができました。こうなればまたチェコです。時刻表もあります。しかし今回は仕事の関係で、明け番からから出発できません。行きは昼行便になりました。ネットを調べると、エールフランスグループに入ったKLMオランダ航空のサイトで購入することになりました。そんな訳で今回は、アムステルダム便に搭乗します。

2007年10月14日(日)曇

高崎線と京成の特急を乗り継いで成田空港へ。KL862便は11:30に出発しました。初めてのKLMでしたが、なかなか新鮮でサービスも良く悪くありません。まだ新しい777-200だったのも影響しています。アムステルダム・スキポール空港に16:00に到着しました。

この後はいけません。乗り継ぎ便ののプラハ行きは19:25発なので、3時間近くのトランジットとなりました。チェコ航空共同運航便のKL3123便はA320で、定刻に20:50にプラハ・ルズィニェ空港に到着しました。

入国手続きをしてパスポートにスタンプをもらおうと、手馴れたもので市営交通の案内所で市内まで使える乗り換え可能の切符を買っ

て、21:17発119系統の接続バスに乗ります。なおバス乗車の際に刻印を忘れずに。これを忘れると切符が有効になりません。20Kcで75分有効です。(※注意 チェコ共和国は先日シェンゲン協定を締結しました。現在アムステルダムで入国審査を受けるように変更になっています。)

地下鉄A線の終点Dejvickáに21:37に到着して、21:40発の地下鉄に飛び乗る。この時間の地下鉄の利用はちょっと怖いですが仕方ありません。4つめのMustekでB線に乗り換えて、ネットで事前に予約したホテルのある次のNamesti Republikyに21:57頃に到着しました。

地上へあがると普通列車の終着駅であるプラハ・マサリク駅があり、ここでチェコ・フレシキーパスをバリデイト(有効化)しておきます。ディスカウントされていて安いのですが、今回の旅行で一番高いホテルで、さすがにバスタブがありました。

2007年10月15日(月)晴

朝食を食べてからチェックアウトしてプラハ中央駅へ向かいます。8:16発急行のR650レに乗車。ELがコンパートメントの客車を牽く。ほどほどの乗車率です。右へカーブを続け、ヴァルタヴァ川を渡ると霧が濃くなってきました。プラハ・スミーホフに停まるというの間にか川沿いを走るようになっていて、けっこう船と行き違えます。

Berounを出ると畑が多くなり、10時ごろにプルゼニに停車。ここで10分ほど停車して、乗客が入れ替わりました。市街地を抜け、畑と森と丘陵地を進むと1時間ほどで7分遅れの11:08にPiana u Marianskych Lazniに到着です。

乗り換えた単行のレールバス27569レは4分



R650レ Pízenにて

遅れの11:10に発車しました。乗客はほとんど乗っていて、本線から離れ、草生した単線の線路をレールを軋ませながら進みます。途中駅は畑や森の中にある無人駅で、地元の人が降りてゆきます。左からレールが近づいてくるとTachovに11:26に到着しました。乗客を降ろすと、折り返しすぐに戻ってゆきました。

ここで2時間の待ち合わせです。ちょうど昼飯時なので中心街に出ることとしました。駅脇の道を行くと、バスターミナルがあり、そこから下り坂になっています。しばらく歩いて教会のある斜め左の道へ入り、市街地を抜けると広場に出ました。ちょうど銀行があったので、ATMでお金を下ろしておきます。

ぐるっと街を見て回り、食堂を探します。すると地元の客が出入りする狭い階段があり、ランチメニューらしき看板が出ています。階段を上がるとバーなのですがランチをやっているらしい。

席に座るとペラ紙一枚にメニューが。ビールと適当なメニューを指差すと肉の煮込み料理にクネドリーキ（蒸しパンの付け合せ）が出てきました。これがうまいのなんの。会計も恐ろしく安く、満足して席を立ちました。

駅に戻るとこれから乗る列車が到着するところです。2両のレールバスで到着しましたが1両切り離されました。これまたほどほどの乗客を乗せて27525レは13:22に発車しました。

右カーブを続け、坂を下ってゆきます。右



手に先ほどの教会が見えてきました。市街地をぐるっと回っていたのです。畑や森の中をのんびり進んで、14:44にただの分岐駅Pohezy ovicelに到着です。この先に進む列車の接続が無いので枝線へ乗り換えました。枝線からの列車が到着するとレールバスのトレーラーをからめた複雑な入換が始まります。

15:07発17411レはレールバスの3両編成です。しかし、一番前の車両に乗るよう案内されます。これは、途中のHorsovsky Tynに着くと分かりました。学校があるようで学生が待っています。後ろ2両は切り離され、今来た道に戻って行きます。ローカル線なので列車本数が少ないなか、学生輸送をこなす知恵です。

途中の信号所で本線に合流して、スピードを上げると16:02にStankovに到着しました。乗り換えた16:08発7418レはプルゼニから来たDL牽引の客車列車です。ボックス席に座るとDomazliceに16:30に到着しました。

乗り換えの17:00発17553レは駅舎前に停車中の旧型DC単行です。これです。今回の旅行の目的のひとつで、インターネットで調べていたらこの地方の路線で使われているらしい情報を入手した、やって来ました。外板はスチールですが、車内は木製で白熱灯。座席はビニールレザー張りで網棚です。窓を開けるのに窓下のハンドルを回します。どうやら1959年シュコダ製のようです。

発車するともっと驚きました。床下から聞こえてくるのはエンジン音ではなく、吊り掛

けモーター音なのです。運転台後ろにディーゼル発電機があり、ここで発電した電力をモーターに伝えて動かしているようです。

この時代のものですから、当然吊り掛けモーターになるわけで、力行中はディーゼル発電機からもくもくと黒煙が煙突から上がっています。

そして、発電ブレーキも掛かるらしく、坂を下るときもモーター音を響かせていました。

(抵抗器がどこかにあるかもしれません。) 空気圧縮機も旧型のコンコンコンと響くやつでまるで旧型電車に乗っている気分です。

これまたこの路線はアップダウンが激しく、それはそれは乗り心地を充分楽しめます。途中ですれ違った列車も同型を使用しているようで、うれしい限りです。途中で本線と合流し、18:02にKlatovy到着しました。

どうやらここから山に向かう路線にも使用されているようです。反対側のホームに同型が発車を待っていて、出発するのを見送ります。やはり同業者がいて、写真を撮っています。

さて、宿を探します。これもインターネットでチェコの地図を検索すると、ホテルの位置が表示され、ホテルの詳細が表示されます。事前に行程を練っていたので、宿泊候補地はこれで下調べ済みで、地図も印刷してきました。

駅前には団地はありますが、街外れで少し歩きます。駅を出てバスターミナルを過ぎて、鉄道のガードをくぐると右へ曲がり、川沿い



旧型気動車 Harazdoviceにて

の両側に市街地が始まります。少し歩くと石造りの町並みになり、一番目のホテルへたどり着きました。

フロントのお姉さんは英語が話せるので少し助かります。部屋は空いていて、プールは入るのか？と尋ねます。入らないというとその分値段を引きました。このホテルにはプールがあり、地元の人が泳ぎに来ているようです。

そして、明日の朝が早い事を言うと、朝食が間に合わないので、朝食の値段も引いてくれました。そのかわり、先にお金を払います。部屋に荷物を置いて街中へ行くと、教会のある広場は美しく、レストランで夕食を取ってからホテルへ戻りました。

2007年10月16日(火)晴

まだ薄暗い中フロントに鍵を置いてホテルを出ます。外は霧が掛かっている、昨日のホテルまでの道りを駅へ向かいます。既に入は動き出していて、人通りが多い。

駅に着くと売店兼カフェはもう開いていて、みなさん朝ごはんを食べています。私も並んでいるパンと飲み物を買ってホームへ向かいます。

7:15発17517レは始発ではなく、DCとレールバスの混成の列車が到着するとDCを切り離し、レールバスのトレーラーを連結して、2両編成で発車しました。入換で5分遅れです。



17517レ Susiceで小休止

駅を出ると右カーブで市街地の縁を築堤で走ります。市街地が途切れるところの駅で乗客が増えます。その後だんだん山間を登ってゆきます。紅葉がきれいで、枕木にはびっしり霜が着いています。

Susiceで小休止。静かでいい町です。ここを発車し、2～3駅進むと車掌から突然列車を降りろと言われます。列車を降りると駅前にバスが2台待っていて、バス代行です。後ろのオンボロバスに乗車すると発車しました。センターラインの無い田舎道をはがらがん飛ばします。

駅に立ち寄るのに狭い道に入り、住宅地の中を進みます。市街地を外れると本線が見えてきて分岐駅であるHarazdoviceに8:52に着きました。駅舎に入ると既に接続列車の発車時間は過ぎていましたが、その列車が大幅に遅れていると放送があり、安どとため息が広がりました。

そこへ区間運転の終着列車が到着しました。それがあの旧型気動車だったのです。市街地から外れた分岐駅なのか駅には売店は無く、コーヒーのカップ販売機だけです。

8:52発のR841レは18分遅れで発車しました。ELがコンパートメントの客車を牽引する急行列車で、モケットの個別シートでした。Tabor方面へのローカル線の乗換駅Raziceに16分遅れの9:33に到着です。はたして接続列車は待っているのだろうか？

駅舎側に新型DCが停まっており、車掌に確認するとTabor行きだと言います。数人



の乗り換え客を乗せると、こちらも16分遅れの9:35に8405レは発車しました。左へカーブすると右から電化路線と合流して、すぐにPutimに停車します。架線下を進むとPisekに到着して、乗客が入れ替わります。遅れているのですぐに発車です。

右手の草生した単線へ入り、丘陵地を巻きながら高度を上げてゆきます。この新型車は2両組だがなんと単車で、どうやらレールバスの代替車両のようです。車内にはLEDの表示装置があり、次駅と行き先を表示していて、出入り口付近が一部低床なっています。何よりも前が見えるのは楽しい。

先ほどの駅から特別改札要員のお爺さんが乗ってきてきっぷのチェックをしています。丘陵を登りきった交換駅で対向の列車に乗り換えてゆきました。

Taborが近くなると乗客が増えてきて、私のBOXにも学生が座り、10分遅れの11:02に到着しました。次の路線は前回来たときに気になっていた直流電化路線です。乗り場は駅の



外の独立したホームから発車することは知っているの、そこへ急ぎます。

本線とは電化方式が違うため、レールは連絡線でつながっていますが、架線はつながっていません。凸形E1が2両の客車を牽引します。各コンパートメントはお客で一杯なので、通路側に座らせてもらいます。

28408レはなぜか17分遅れの11:25に発車して、右にカーブし市街地の中を急勾配でゆっくり下りて行きます。右手には旧市街の城壁が見えて、川を渡ると畑が広がります。丘陵地の地形に沿って敷設しているの、カーブの連続です。したがって速度も出ません。

途中駅は畑の真ん中であって、踏み切りは徐行します。途中突然引込み線が分かれていたりして、結構謎が多い路線です。そして、終着駅の手前で一旦停止、警笛を鳴らして最終徐行で走り出すと石橋の併用軌道区間に入りました。結構な峡谷で川面ははるかに下です。道幅は狭く、列車通過時は信号で片側車線は止められています。左手には旧市街らしい建物が見えて、なかなか眺めが良い。

橋を渡りきると終着Bechynelに15分遅れの12:10に到着しました。けっこう観光客が多く、すでに発車時刻は過ぎていましたが、機回しをして15分遅れの12:20に発車しました。28411レは結局遅れを回復することは無く、Tabořに同じく15分遅れの13:06に到着です。

すでに乗り換えの急行は発車時間を過ぎていますが、バス代行区間を挟んでいるので遅れてくると思われ。予想通りR640レは13



:10に12分遅れでやってきました。乗車したコンパートメントはちょっと様子が違って、壁面に板が折りたたんであります。どうやらクシェット(簡易寝台車)車両のようです。

10分遅れの13:51にBenesov u Prahyに到着しました。この路線の途中からのローカル線に乗り換える予定なのですが、この急行はその駅に停まらないので、ここで普通列車に乗り換えます。

ここからはプラハの近郊区間らしく、4両編成の電車です。14:18に発車する9132レは初期型で前面が流線型になっています。動力車は先頭車両だけで吊り掛けモーターが唸ります。

路線工事中らしく、複線を単線使用しています。森の中の無人駅でも結構な乗客が降りたのはびっくりした。

14:30に乗換駅のCercanyに到着。14:33発9273レは駅舎横の狭いホームにレールバスがトレーラーを連結して停まっています。車内は学生で一杯ですが、座席にはありつけました。

無人駅に止まるとでパラパラと学生が降りて行きます。途中Samechovで列車交換があり、信号機は使用停止になっていましたが、駅員はいて出発合図は出しています。閉塞はどうなっているのでしょうか。

この列車の終着Sasava-orne Budyに15:15に到着です。駅は小さいのですが、大きな町で駅前にはビルも建っています。まだ昼飯を食べていないので、駅前食堂にお邪魔すると



パブのようで、みんなビールを飲みながらおしゃべりに夢中です。女性の店員に食事はできるか？と聞くとメニューを持ってきました。適当に注文すると、トマトと鶏肉と唐辛子をケチャップで炒めたものにポテトとサラダが1皿になって出てきました。ボリューム満点です。唐辛子さえ食べなければこれはおいしい。しかし、列車の時間が迫り、少し残してしまいました。ごめんなさい。

16:12発の9211レで先を進む。また、レールバスがトレーラーを1両ぶら下げてやってきました。この先は、Sazavou川の渓谷沿いをひたすら流れに沿って進みます。時々支線を分岐する駅があり、レールバスが客待ちしています。

ひとつくらい中規模の街がありましたが、それ以外は渓谷と森です。少しの間川から離れて、丘陵地を登った区間もありました。そこには草原の空港があって、なんと停留所もあったのです。しかし旅客ターミナルは無く、トタンの掘っ立て小屋があるだけで、当然乗降客はいませんでした。

薄暗くなってきて本線と合流するとSvetla nad Sazavouに18:11に到着しました。乗客は終始10数人で、到着してみるといつの間にかトレーラーはどこかの駅で外されていました。

停車中の18:17発のE Lが3両の客車を従えた本線各停の5913レに乗り換えます。車内は開放式のBOXシートです。しかし、自動販売機のカップコーヒーを片手に線路からデッ



9211レ Sasava-černe Budyにて

キを使って車内へ登るのがつらい。複線電化路線を各駅に停まりながらHavlic kuv Brodに18:35に到着。数路線が交差するジャンクションです。15時過ぎに昼食を取ったばかりでありお腹が空いていないので、駅構内のビュッフェでサンドイッチと飲み物を買ってホテルで食べることにしました。

駅を出て坂を上り、右に坂を下ると幹線道路沿いのバスターミナルがあります。川が流れていてその橋のたもとにある観光ホテルが今夜の宿の候補です。フロントで交渉すると難なく部屋はあり、今日は疲れたのでホテルから出ることなく休むことにしました。

2007年10月17日(水)晴

ホテルで朝食を取って、Havlickuv Brod8:02発のR671レに乗車します。荷物室との合造車はコンパートメントで布モケットでした。複線電化線を走り、支線との分岐駅のZdar Nad Sazavouに8:27に到着しました。駅舎前のホームにレールバスのトレーラーが3両停まっているのですが、車内は暖かい。床下から石油ストーブの匂いが漂っているので、おそらく灯油焚きの暖房装置が付いているのでしょう。

発車時刻間際になって小型DLが先頭に連結されました。ドアは自動ですし、この方が普通の客車をひくよりはいいのかもしれない。

定刻になっても発車しません。しばらくし



R671レ Zdar Nad Sazavouにて

て貨物列車が到着すると14909レは入れ替わりに10分遅れの8:50に発車しました。この路線は支線ですが、またのちほどさきほどの幹線に合流します。別ルートで山越えするので。

ほどほどの乗車率で発車した列車ですが、20分ほど走ったNove Mesto na Moraveでほとんど降りてゆきました。その後丘陵地の畑を縫うようにアップダウンを繰り返してゆっくり進みます。

登りきったBystrice nad Pernštejnemに着くと車掌が来て「降りろ」と言います。「バス代行か？」と聞くと「そうだ」と駅前のバスに指を差しました。バス1台ですむ乗客を乗せて、最後に運転士と車掌が乗り込むと出発です。

駅前通りを進み街中へ入ります。しかしレールとはあさっての方向です。街を抜けると交差点を曲がり、地方道へ。坂を下り、集落の中の狭い道を抜けるとレールが見えて、Rozna駅に着くと先ほどと同じ内容の編成が停まっています。(もちろん別の編成ですが。) どうやら、丘の上から谷底までの区間が何らかの理由で運転していないようです。

こんどは溪谷沿いをひたすら下ります。途中駅から少しずつ乗客を増やし、再び本線に合流したTisnovに10:33に到着しました。

10:41発の本線各停の4949レに乗り換えるとBrno都市近郊圏の区間列車で、ELがドアが中央に寄った近郊型客車を連結した編成です。複線電化の路線を走って、Brno hl.nに



11:18に到着しました。

乗り換えの快速SP1725列車は駅裏側の片面ホームから発車します。売店でコーヒーを買って待っていると出発時刻になってからDLが客車をひいて入線です。結局5分遅れの11:37に発車しました。車内は両端デッキの開放型のBOXシートです。

途中まで電化された路線を走ります。本来は340路線に行くのですが、300路線に入ります。今回はこの逆でしたので、好都合です。この両路線が交差するインターチェンジを過ぎると複線非電化となりました。そして初めての停車駅に停まります。この間停車駅が無いのでどちらの路線を走ろうと関係ないわけです。

荒涼とした原野を縫うように進むと、斜面にはぶどう棚が並んでいます。電化幹線と交差しますが駅は無く、立体交差になっていました。なお、手前のBzenecから連絡線が分かれ、ここに区間運転の連絡列車が走っています。

右手から線路が合流し、Veseli nad Moravouに到着すると各方面の列車が連絡します。ここからは各駅に停まります。単線非電化ですが、今までと違い街が連続するようになりました。後で乗ることとなる右側へ三角デルタ線を分けるとUherske Hradisteに13:29に到着です。

中規模の街のようで、駅はにぎわっています。構内にある売店兼カフェでサンドイッチとビールで遅い昼食を取りました。乗車する

4305レは先ほど乗ってきた列車と機関車も客車も同じ編成で、既にたくさんの学生が乗車しています。

6分遅れの14:20に発車しました。来た道を少し戻って、先ほどの三角デルタ線を左に進みます。ブルノから直通する急行は先ほどの駅には寄らずに、この三角線の残りの一辺を通ります。

普通列車は普段はレールバスや気動車の数両編成のようで、おそらくこの学生輸送をこなすため、車両はブルノから直通なのですが、この区間は列車番号を変えて時間調整をしてから各駅に停めるようにしているのでしょう。

谷筋を登ってゆき、支線を分けて、各駅で学生が降りて行きます。町並みが尽きる頃に車内は閑散となり、列車は左カーブを切って反対側の斜面を登り始めました。登り切ると眼下に先ほど走ってきたレールと駅が見えます。ここはセミループになっているのです。

しばらくこの先は灌木の中の丘陵地を縫うように走って行きます。左から単線のレールが寄り添ってくると分岐駅のBylniceに5分遅れの15:52に到着です。駅前には数件の家があるだけで何もありません。降車した列車はスロバキアの国境駅行きでホームから去ってゆく列車がずうっと眺められました。

ホームに停まっていた単行のレールバスが動き出し、構内の外れまで行き、トレーラーを入れ替えてまた戻ってきました。これが16:10発の23220レです。

定刻通りに発車。谷筋を少しづつ上ってゆ



23220レ Bylniceにて



SP1725~4305レ Uherske Hradisteにて

きます。築堤上の駅とか、がらんとした駅舎のある無人の交換駅に停まって、トンネルで峠を越えると谷のがけ上のHorni Lidecに16:44に到着しました。乗客は少ないですが、結構乗り通した方が多かったです。

ここもスロバキアとの国境駅で税関もありました。17:09発の3210レはスロバキアからの各駅停車の国際列車で、E Lが数両の客車をひいてやってきました。私と一緒に税関係員も乗り込んでゆきます。

複線電化路線の勾配をさらさらと降りて行き、普通列車なので各駅に丹念に停まってゆきます。支線を分けるVsetinは大きな町でここに泊まったほうがいいかなぁと頭をよぎりましたが、結局予定通りにその次のジャンクションValasske Mezircyに5分遅れの17:56に到着しました。

駅舎の中にある観光案内所で宿の紹介を受けましたが、予約はしていないようでした。教えてもらったホテルへ向かいます。駅前にホテルは無く、ちょっと不便です。

しかし紹介されたホテルはなんと満室。次のペンションへ。しかしここはなんと今日は泊まりを受け付けていないとの返事。さぁ困りました。次のホテルは駅からちょっと遠いのです。でもがんばって歩きました。

3軒目のホテルでやっと部屋がありました。この街の規模に対してここはホテルが少ないようです。部屋は広くて安くて申し分なし。地元客でにぎわう1階のレストランで鱈のムニエルをいただきました。 [つづく]